第　４４　号

平成１７年6月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 大里郡花園町荒川983
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

菩提樹（ピッパラ樹）

菩提樹（ピッパラ樹）
お釈迦さまは二十九歳から六年間、難行苦行（難かしく苦しい修行）をしますが、それは苦悩の解決や世の中の救済にはならないと考え、ガンジス川の畔のピッパラ樹の下で坐禅をなさり、思考を深めて菩提（悟り）を開かれました。したがってこの木を菩提樹と呼びます。

菩提樹は大木で、ハート形の葉っぱを茂らせ、暑いインドでは快適な木かげをつくります。また黄色の小さい花をいっぱい咲かせ、種子は数珠にも使います。

写真は、寿楽院の菩提樹ですが、インド菩提樹とは別種のもので中国や日本では、この木を菩提樹としています。5月の下旬には、淡黄色の花が咲きすばらしい芳香を放ちます。漂う香りを嗅ぎに来てください。

日本では普通菩提樹と呼ばれているのは、中国原産のシナノキ科の木で、中国でインドボダイジュと間違えられてボダイジュと呼ばれ、そのまま日本に伝えられたようである。もちろんこの木はインドにはない。

寿楽院庫裡の瓦屋根葺き替えが五月初旬に実施され見違えるように立派になりました。

空海の言葉　シリーズ

雨足多なるもこれ一水なり（あまあしたいすいなり）

◆どしゃ降りの雨も、
その一滴一滴は同じ水になる

大粒の雨の一滴を目で追うと、それは池の水面に落ちて水滴ではなくなり、小さな波紋が広がります。その瞬間、次の水滴が落ちてきて、さっきの波紋を打ち消して、新しい小さな波紋をつくります。

そして、また新しい水滴が……波紋はあとからあとから際限なく広がっては消え、広がっては消えていきます。混沌とした雲から、いま目に見える形となって生まれた一滴の雨粒は、縁あって生まれた人間と同じです。

それにはきっと、雨粒の魂も宿っているに違いありません。その雨粒の一生は、水面に落ちて形が消えるまで、です。

人の一生は百年だ、といってみても、宇宙の目から見れば雨粒と似たようなものです。　ダイヤモンドのようにキラキラ光る雨粒も、真っ黒に汚れた雨粒も、大金持ちの雨粒も、貧乏な雨粒も、水面に落ちると同時に、みんな仲よく消えるのです。

どんなに威張りちらした一生も、いじめ抜かれた一生も、同じような波紋を残して、同じ池の水になるのです。

（空海のことば）より